

2019年3月10日(日)／説教者：神谷武宏

親子礼拝

説教：「父と母を敬いなさい」

聖書：エフェソの信徒への手紙6：1～2

緑ヶ丘保育園の卒園式を前に、旅立つ子どもたちを覚えて礼拝を捧げます。聖書に「父と母を敬いなさい」という言葉があります。この言葉は自分が親になったから自分が聞く言葉ではなく、子に言い聞かせる言葉とするものではありません。いくつになっても、自分自身に言い聞かせる言葉です。たとえ両親がもうこの世にいらなくてもです。

星野富弘さんの詩を紹介します。星野さんは元々体操の選手で、大学を出て中学校の体育の先生になりますが、赴任して間もない時期に部活の指導中、吊り輪から落ち頸髄損傷で首から下が全く動かなくなってしまう大けがをしました。

「母の日のプレゼント」

母の日のプレゼント 何にしようか 考える 母が一番 喜んでくれるもの
母が一番 欲しいと言っているもの いくつかあるのだけれど それはみな
台所用品だったり 畑で使うものだったり… 家族のために使うものばかり
毎年考えて 涙ぐむ 母の日のプレゼント

とても心温まる詩です。星野さんは、最後のところで「毎年考えて 涙ぐむ 母の日のプレゼント」とありますが、星野さんは何に涙ぐんでいるのでしょうか？ 一つは、母への「感謝」の涙。「申し訳ない」という涙も。星野さんは自分では何にも出来ない体ですから、毎日面倒を見てもらっていることについての涙でしょうか。

もう一つ、その涙の意味があるのかと思います。それは、何が欲しいと母に聞いているのに「台所用品だったり 畑で使うものだったり…家族のために使うものばかり」。母親と言うものは、いつも自分の事は後回しにするものです。家族のためにつくすものですが…。そういう姿に、星野さんの涙があるのではないのでしょうか。

その母の愛は、イエス・キリストの愛と重なるように思います。イエス・キリストは、神の子でありながら、十字架に架けられたとあります。それは何故なのか？ それは 《わたしたちが生きるようになるためです》(ヨハネー4：7-10)と聖書は記しています。私たちが生きるために、キリストの十字架がある…。自分が生きることと、キリストの十字架は関係ないでしょ…と、言いたくなるかと思いますが、ただ私たちは、母の愛に気づかずに生きている事はあるものです。母のみならず、私たちは必ず誰かのおかげで、誰かの犠牲によって今があるものです。自分は自分の力で生きている！…なんて言いきれない人は誰もいないのです。私の知らないところで、私のために祈っている方がいる、働いている方がいる、犠牲を払っている方がいる、愛してくれている方がいる…。「父と母を敬いなさい」という言葉からそのことに気づいていくことが出来ればと思います。(神谷)